

群馬大学医学部附属病院



群大病院だより

GUNDAI NEWSLETTER

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町三丁目39-15 / TEL 027-220-7111(代) / ホームページ <https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/>

看護部長ご挨拶



群馬大学医学部附属病院 看護部長 河村 恵美

令和3年4月1日より、塚越聖子前看護部長の後任として看護部長を拝命いたしました。平成3年に群馬大学医学部附属病院に入職し、外科病棟・手術部・医療安全管理部で看護師としての経験を積ませていただきました。また副看護部長としては6年間、看護部長とともに患者さんにより良い看護を安全に提供できるよう努めてまいりました。

私たちの看護の原点

群馬大学医学部附属病院看護部のキャッチフレーズは「あなたに伝えたい相手を思う看護の心」です。高度な医療を提供する大学病院だからこそ、看護の原点となる「相手を慮る^{おもんばか}」という心を忘れてはならないと思っております。

若い看護師は高度な医療に触れることにより、早く知識や技術を身に付けなければと焦りがちです。もちろん、しっかりとした知識や正確な技術は安全な医療を提供するために必要不可欠です。しかしそこに相手を思う心があってこそ、患者さんの安心や信頼につながるのだと思っております。常に、相手がどんな思いでいるのだろうかと思いをはせることこそ、私たちの看護の原点です。患者さんが抱えている苦しさや辛さを無くすことはできませんが、同じ思いを共有することで、少しでも心穏やかな時間を持てただけならと思っております。

私たちは患者さんからのご意見を大切にしています

病院にはいくつかのご意見箱が設置してあります。

また、退院時に無記名

でのアンケートをお願いしております。それらは毎日、看護部と医事課医療支援係で回収を行い、すぐに解決できない施設や仕組みの問題もありますが、ご指摘いただいたスタッフの接遇に対する問題などは当該部署の管理者を通じて指導を行い迅速に改善に努めています。

患者さんからのご意見の中には「医療者間の連携ができていない」「同じことを何度も聞かれる」など、まだまだ改善すべき点が多くあるのだと認識しております。患者さんにとってのつながる医療・看護が実現できるよう本当の意味のチーム医療を目指し、努力してまいりたいと思っております。「大きな病院だから仕方がない」こんな言い訳は通用しません。

高度な医療を提供しつつ、きめ細やかな看護が提供できるよう心掛けてまいりたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



も く じ

- 看護部長ご挨拶 1 ページ
- 新任のご挨拶 2 ページ
- 群馬県知事から感謝状が授与されました 2 ページ
- 診療科紹介「循環器内科」 3 ページ
- 患者支援センターからのお知らせ
・医療機関のみなさまへ 3 ページ
- 病院探検！「リハビリテーション部」 4 ページ
- 患者さんご自身のカルテをベッドサイドで閲覧できるようになりました 4 ページ
- 多機能診療棟のご案内 4 ページ

新任のご挨拶

小児科

教授 滝沢 琢己



2021年7月に小児科の教授になりました。小児科は、子どもの内科的病気すべてを診察しています。病気だけをみるのではなく、すこやかな発育のために、赤ちゃんから青年期まで、入院中であってもそれぞれの年代にあった遊びや学びの機会を提供することを、心がけています。また、入院していなくても、よりよい療育環境を整えるために家族や学校との連携、サポートも積極的に行っています。地域子ども達のすこやかな成長のために尽くしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

循環器内科

教授 石井 秀樹



この度、群馬大学にお世話になることとなりました石井と申します。当科は群馬県の循環器疾患における「砦（とりで）」として、今後も頑張ってお診察に当たってまいります。

群馬県での疾患別死亡者数では、急性心筋梗塞、心不全そして脳卒中を含めた循環器疾患が、癌を抜き一位となりました。その対策は待たなしです。特に心不全対策としては群馬県庁そして近隣のかかりつけ医である先生方とは緊密な連携をとっており、県民の皆様が健康な生活を過ごしていただけるお手伝いをしたいと思っております。

総合診療部

教授 小和瀬 桂子



2021年11月1日から総合医療学(総合診療部)の教授となりました小和瀬(こわせ)と申します。総合診療部は、「健康上の問題に悩んでいる皆様の、あらゆるご相談に応じる」ことを基本にしています。他の専門診療科と密に連携しながら、広い視野から総合的な医療を提供しております。また、様々な症状や、患者さん一人一人の体質に合った「証」に基づいて、西洋医学と並行して健康保険が適用される和漢薬による治療もおこなっています。可能な限りの安心感、満足感、納得感をご提供できるよう、鋭意努力いたしておりますので、安心して受診してください。

群馬県知事から感謝状が授与されました

群馬県が設置した県営ワクチン接種センターの運営に協力し、県民への新型コロナウイルスワクチン接種の推進に寄与したことに対して、山本一太群馬県知事から感謝状が授与されました。当院は、引き続き群馬県と連携して、県民の皆様への感染拡大防止に努めてまいります。



左から齋藤病院長と山本知事

診療科紹介

循環器内科



“心臓を「ワンチーム」で守ります”

当院は、特定機能病院として、また、北関東の中核病院として、高度医療を提供しています。体に負担の少ないカテーテル（細い管）を使用した治療により、致命的な疾患であった急性心筋梗塞も救命率は上昇し、難治性であった不整脈も根治が可能になってきています。一方で心筋梗塞後遺症で心機能が低下したり、不整脈によ



循環器内科集合写真

る心機能低下などによって、慢性心不全患者さんがどんどん増えています。当科では全国でもわずかな施設でしかできない、運動負荷をかけながら血圧や心拍数などを測る「運動負荷心臓カテーテル検査」を行っており、より詳細な心不全の原因の解明につながっています。また地域連携のリーダーとして、群馬心不全地域連携協議会を組織し、「心不全手帳」を発行しています。

今年から「息切れ外来」を始めました。息切れは加齢によるものではなく、心不全や不整脈、慢性閉塞性肺疾患、心臓弁膜症や肺高血圧症などがかかっている可能性もあります。原因となる病気が分からない患者さんにも、積極的に診療を進めたいと考えています。

患者支援センターからのお知らせ

医療機関のみなさまへ

— FAXによる初診予約の推進について —

当院では、患者さまの待ち時間軽減のため、FAX予約を推進しております。医療機関のみなさまには、ご協力お願いいたします。

また、令和4年2月1日より、初診予約申込書に以下の項目が追加・変更されました。

【追加・変更点】

- ★ 循環器内科 息切れ外来（木曜日午前）の新設
- ★ 小児科 専用申込書へ変更（疾患分類毎に予約申込）

詳しくは患者支援センターのホームページをご覧くださいませう、よろしくお願いいたします。



病院探検！「リハビリテーション部」



患者さんの生活の再建を目指して

リハビリテーション部では医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの専門職が連携し、病気や怪我によって引き起こされた障害を治療し、患者さんが元の生活に戻る支援をします。脳卒中や骨関節疾患、心臓や肺の疾患、がんの手術後、精神疾患、長期入院による廃用症候群などさまざまな疾患が対象となりますが、臓器別ではなく、横断的、総合的に障害を捉えて、患者さん一人ひとりにオーダーメイドの治療を提供しています。



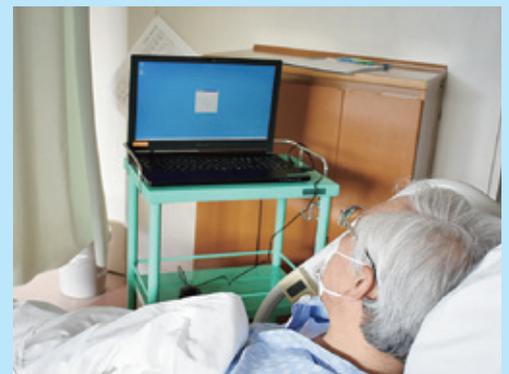
元の生活に戻るためのお手伝いをします

患者さんご自身のカルテをベッドサイドで閲覧できるようになりました

当院では、患者さんが積極的に医療に参加していただけるように、入院中の患者さんは診療記録（カルテ）を閲覧することができます。

閲覧用のパソコンは病棟フロアの食堂の一角に設置してありますが、この度、ベッドから降りられない患者さんも閲覧できるように、ベッドサイドへ持ち込めるパソコンを用意しました。

各病棟にありますので病棟スタッフへお声がけいただき、ぜひご自分のカルテをご覧ください。



多機能診療棟のご案内

外来玄関ロータリー北側に多機能診療棟が設置されました。

本施設は、感染症流行時に診察室として使用するほか、自然災害や大規模事故等の際にトリアージスペースとして使用することを想定し設置しました。

通常時は多用途フリースペースとして開放し、バスや送迎車の待合室として利用できます。

※現在は、感染症流行時のため、診察室として使用しています。



群馬大学医学部附属病院「群大病院だより」

第12号 2022年3月

編集 ■ 群大病院だより編集委員会

発行 ■ 群馬大学医学部附属病院

発行日 ■ 2022年3月9日

ホームページ ■ <https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/>

病院の理念

大学病院としての使命を全うし、国民の健康と生活を守る。

基本方針

安全・納得・信頼の医療を提供する。
次代を担う人間性豊かな医療人を育成する。
明日の医療を創造し、国際社会に貢献する。
医療連携を推進し、地域医療再生の拠点となる。